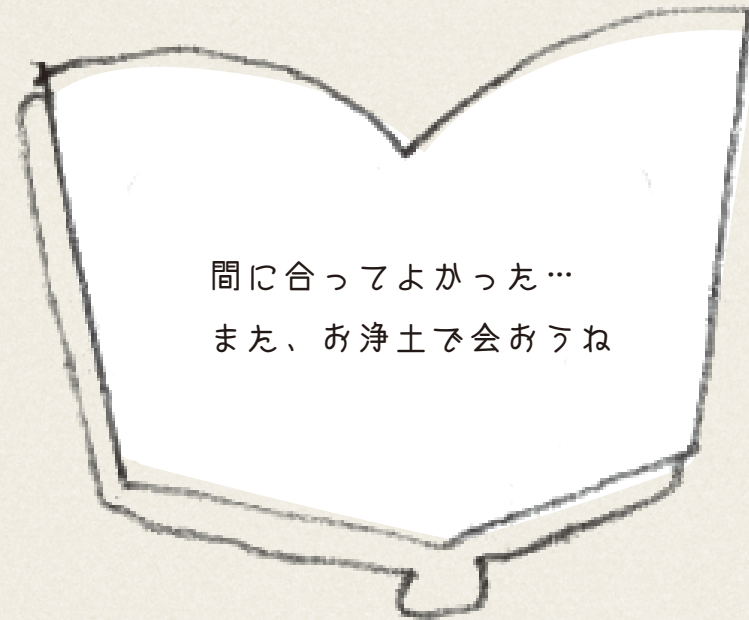


いのちの葉

お慈悲の温もりに包まれて



間に合ってよかった…
また、お浄土で会おうね

■ 柳川真諦 やながわしんたい
布教使 / 東京

死ぬのが怖い

4年前のある夏の日、チーちゃんは突然お寺にやって来ました。

私の顔を見るなり大粒の涙を流し、「これを真生さんしんじょうに渡してください」と自分の連絡先を記したメモを差し出しました。

「真生さん」とは、岐阜に住む私の法友の名前です。チーちゃんは34歳。末期の乳がんで、その時、余命3ヶ月を告げられていました。その限られた時間の中で、彼女は必死に生まれてきた意味と死んでいく意味を探していました。

私も同じ乳がんだと告げると、「死ぬのが怖い…」と泣きました。そして、この恐怖を支えてくれる誰かに側にいてほしいと…彼女には優しい夫がい

いましたが、死の話は悲しむからできないと言いました。たまたま大好きな歌手をネットで検索中につながった真生さんのブログを読んで、僧侶だとは知らずに「この人だ」と直感したそうです。そして、会いたい一心で、話の内容から東京に住む私を訪ねてきたのです。

本当に不思議なご縁です。彼女は人生の最期に仏縁あに出遇ったのです。私は阿弥陀如来という仏さまが「大丈夫。必ず救うから任せなさい」と今、チーちゃんを抱きしめているから何も怖くないよ。そのお慈悲の温もりに出遇ったものは、必ず、お浄土に生まれていくからね。また、会える世界が待っているから安心してね。と伝えました。

遇えてよかった

10月の初め、真生さんがチーちゃんと一緒にその歌手のコンサートに行くために私のお寺に泊まりました。2人は文通やメールですっかり親友になっていましたが、これが初対面となるはずでした。しかし、チーちゃんは直前に入院。彼女は千葉の病院までお見舞いに行きました。そこで2人は抱き合い、贈り物を交換し、たくさんおしゃべりをして笑ったそうです。もちろん、お浄土の話も…。

「間に合ってよかった。阿弥陀さまに遇えてよかった…」。チーちゃんはそう言ってくれたそうです。

その時、チーちゃんは、阿弥陀さまの大きなお慈悲の温もりに包まれていたに違いありません。

10月11日、チーちゃんはお浄土に生まれて往きました。「またお浄土で会おうね」。3人で交わした約束です。